

平成28年度事業報告

平成28年4月1日～平成29年3月31日

概要

金谷美術館が開館してから8年目を迎えた。「石と芸術の町」をテーマに地域行事やイベントの開催、遊休資産の活用、そして多くのボランティアの協力により地域全体を視野に入れた活動を行って来た。

シニアアドバイザーの元彫刻の森美術館館長鈴木隆敏様氏により美術館運営の指導を仰ぎながら運営を行う中、少しずつであるが金谷美術館の知名度は高まって来きた。鈴木氏との契約は平成29年6月末をもち終了となり今後は培った運営ノウハウと人的ネットワークで展観事業を含め独自の運営を進めていくことになる。

恒例となった国際交流で10月には第4回目となるバリ金谷インターナショナルアートウィークを実施しバリ島より小学生26名、先生7名、引率関係者を合わせ総勢37名の国際交流団を招き美術館が中心になり国際交流を行った。また平成29年3月にはアーティストインレジデンス事業「南総金谷藝術特区」を開催し、10名のアーティストが金谷町内に滞在し金谷町内で作品の展示を行った。レセプションやワークショップでは町内のお年寄りなども参加しアーティストと住民の交流も測ることができた。富津市総合戦略の観光振興（インバウンド招致）や移住促進とも関係し今後地域活性を行政の支援を受けながら進めていく上でよいきっかけとなる。

平成19年から開始している「金谷石のまちシンポジウム」は平成28年11月に第8回を数えるまでになった。石の研究者の協力により続けて来たこの事業により鋸山の産業遺産としての歴史的価値が高い評価を得る事ができて来た。鋸山を訪れる観光客は着実に増えている。視察や講演の依頼も増えて来ており、鋸山や地域に対する興味が高まり実績としての数字も上がってきている。

当公益財団法人の事業は、公益財団法人の目的に沿った公益目的事業を展開しているが、これらの事業を行なっていく上で多くの法人、団体、個人の支援なしでは難しい。平成27年度の寄付活動の結果、寄付金・募金・協賛金収入の総計は5,746千円であった。昨年度よりは大幅な落ち込みとなったが引き続き金谷美術館の使命と意義を多くの方に理解して頂き支援を仰いで行きたい。

平成 28 年度の公益財団事業の実施状況

1 平成 28 年度公益財団の展示事業と金谷美術館入館者数

平成 28 年度中の金谷美術館の展示事業で入館者数は 7, 433 人と、前年度に比較して約 1, 524 名増加した。大きな要因として世界的に活躍する日本画家千住博展と合わせて館山観光大使であるさかなクン展を開催し、約 1 ヶ月の間で 1, 500 名の集客が得られたことが大きく寄与している。さかなクンは特にここ近年メディアへの登場回数が多く、また夏休みということもあり子供たちに大きな人気を博した。

作品の知名度に頼った展覧事業を行うには借用や搬入を含めそれ相応の経費がかかり、それを賄うだけの収入が確保できなければいけない。この地域での展覧事業はいかにあるべきか、また南房総ならではの芸術活動はいかにあるべきか、この点を熟考しながら運営して行く必要がある。地域各団体や行政との連携を図り、広報にも更に力を入れ入館者増進に努めて行く。

○金谷美術館収蔵作品展「新しい出会いへ」

2016 年 3 月 27 日～6 月 26 日 開催期間 81 日 1,191 名

開館 6 周年を迎えその間美術館の理念に共感して下さった作家ご本人やご家族、美術愛好家の皆様のご篤志により寄贈いただいた収蔵品の数々を紹介した。特に 2015 年に寄贈された糸田玲子作品 4 点、糸田芳雄(1926-1997)作品 3 点、西宮房子作品 7 点、2014 年寄贈の岩波昭彦「浅間山」は初披露となった。

○世界を疾る ～千住博展～

7 月 2 日～10 月 23 日 開催期間 101 日 2,663 名

今日本で一番有名な日本画家千住博。世界的活躍し代表作ウォーターフォールは 1995 年ヴェネチア・ビエンナーレ絵画部門で名誉賞を受賞している。日本画の存在やその技法を世界的に認知させ、真の国際性を持った芸術領域にすべく、講演や著述など幅広い活動を行なっている。同時開催で別館石蔵にて館山観光大使である「さかなクン」のイラスト展を開催。夏休み期間中の子供たちに大人気であった。

○金谷美術館コンクール展 2015 審査員・受賞者新作展

10 月 29 日～11 月 27 日 開催期間 26 日 875 名

第 2 回(2015 年)金谷美術館コンクール展上位入賞者による新作展。合わせて審査員の先生方の新作も展示する。第 4 回コンクール展の申し込み時期より少し早めることでエントリーの増加が図れた。

○愛おしい自然 -南房総ゆかりの作家たち-

12月4日～2017年2月19日 開催期間61日 1,082名

南房総で活躍されている作家による作品展。雄大で自然豊かな房総の魅力を作家独自の技法と視点で切り取り表現されている。合わせて写真家緑川隆氏の写真作品の展示も行う。作品のマップを展示したところ、南房総の名所景観を再認識するお客様の声が多数寄せられた。期間終了後梅田先生、溝口先生より作品の寄贈を頂いた。

○金谷美術館コンクール展 2016

2月25日～5月7日 開催期間64日 1,321名

第3回金谷美術館コンクール展。第2回の後多くの作家の問い合わせもあった。水墨画の根岸嘉一郎先生を今年より審査員に新たに加え7名の審査員で審査にあたる。毎年作品のレベルが高く好評である。応募者数177名、出品総数254点。毎年少しずつ増加傾向にあり目標出品数500点に向けて継続的に行なっていく。

2 展観事業以外の美術館主催の事業

金谷美術館は、地域振興関連行事を美術館が主催者となって、目的事業である次の行事を開催している。

(1) 人材育成事業 (定款第4条第2号)

○ギャラリートーク&ミュージアムコンサート

学芸員による作品のギャラリートークとコンサートのコラボ企画

○美術館鑑賞バス講座

シニアアドバイザー鈴木隆敏氏の解説による鑑賞講座。箱根彫刻の森美術館と岡田美術館を見学。

○新春歌舞伎講演鑑賞講座

シニアアドバイザー鈴木隆敏氏の解説による新春歌舞伎鑑賞講座。

○国際交流事業 (バリ金谷インターナショナルアートウィーク)

第4回目、インドネシアバリ島より児童26名、先生、引率含め合計37名の交流訪問団を受け入れての国際交流。

○南総金谷藝術特区 (アーティストインレジデンス事業)

10名のアーティストを金谷地域に招聘しトータル約2月かけて制作活動を行う。作品は金谷町中で展示を行い3月10日から20日までの間で一般に鑑賞してもらう。

運営組織の開催状況

平成28年度

第1回理事会、評議員会の開催

(1) 日時 平成28年6月27日(月)

出席評議員(4名) 出席理事(5名) 監事(1名)

議案①平成27年度事業報告

②平成27年度決算報告

③監事改選

④その他

第2回理事会、評議員会の開催

(1) 日時：平成29年1月10日(火)

出席評議員(3名) 出席理事(5名)

議案①理事の退任

②館長の就任

③その他

第3回理事会の開催

(1) 日時：平成29年3月23日(木)

出席理事(5名) 監事(1名)

議案①平成29年度事業計画(案)

②平成29年度収支予算(案)

③理事の就任について

④その他

第3回評議員会の開催

(1) 日時：平成29年3月30日(木)

出席評議員(4名) 監事(1名)

議案①平成29年度事業計画(案)

②平成29年度収支予算(案)

③理事の就任について

④その他